

- 管 内 宗谷管内
- 分 類 生活安全 交通安全 災害安全
- 教育課程 教科（科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動 その他
- 校 種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- スクールガードによる子どもの安全を見守る活動の充実
- 安全・安心マップの地域への周知活動を通じた地域ぐるみの安全確保の推進

取組の実際

ねらい

- 保護者や地域住民のボランティアによるスクールガードの取組や学校での安全・安心マップの作成等を通して、不審者から子どもを守る活動の充実を図る。

内 容

1 スクールガードによる見守り活動の実施

平成18年度から市内7地区の「子育て連絡協議会」が教育委員会にスクールガードの登録を行い、町内会をはじめ、傘下の各種団体がボランティアとして、自主的に通学路等における子どもの見守り活動を行っている。

この活動に参加しているボランティアには、共通のベスト、ジャンパー（黄）、帽子、腕章を身に付けていただいている。また、学校においては、子どもに対して、ベスト等を着用している地域の方々がスクールガードとして見守ってくれていることを周知している。



通学路等での見守り活動

2 安全・安心マップの作成と地域への回覧、配布

学校では、子ども自らの手によって、校区内の「子ども110番の家」や不審者が出没した場所、防犯上注意を要する危険箇所等を記した「安全・安心マップ」を作成した。

作成されたマップを校区の地域に回覧、配布するなどして周知することにより、子どもの目線に立った危険箇所の確認等がなされ、地域に根ざした見守り活動の有効な情報となっている。

学校では、「安全・安心マップ」の作成を通して、子どもの主体的な防犯意識を培うとともに、マップを活用した防犯に関する学習を行っている。



校区内の安全・安心マップ

成果と課題

- 子どもが主体となった安全マップの作成によって、自ら危険を予知したり、回避したりする力が育ってきた。
- 登下校時の見守り活動を通じたスクールガードとの挨拶により、子どもと地域住民とのコミュニケーションが深まった。
- 地域住民や関係機関と連携した防犯教室、防犯訓練などを通じて、地域ぐるみで子どもを守り育てる体制づくりを充実させる必要がある。